離婚や別居に伴う「別居親」の実態調査
実施報告書

＜民法改正を見据えた当事者の視点の考察＞

2022年8月8日

子育て改革のための共同親権プロジェクト

考察サマリ

- ✓養育費・婚費の支払を７割が取り決め、９割が継続しているにも関わらず、半数近くが全く子どもと会えていないことが分かった。

- ✓別居親の７割が配偶者からの暴力を受け、相談先について「有効な支援が無かった」「誰にも相談しなかった」の回答で７割を占めた。
  → 家庭内の問題が発生した際に、有効な支援が得られない実情が明らかになった。

- ✓裁判所の決定について９割が不当だと感じる状態が明らかになった。

- ✓心理状態は、別居以前と比較して半数以上が心理的・精神的な負担が高まっている。

- ✓面会交流トラブルについて、相手方からだけでなく、司法・行政・教育機関からの不当な扱いを受けている事例が報告された。

回答サマリ

養育費 婚費

72% が文書取り決め

87% が支払いを継続

中央値は **7** 万円

面会 交流

46% 全く子どもと会えていない

裁判所合意しても **33**% 全く子どもと会えていない

中央値は **5** 時間

暴力 DV

70% が暴力を受け

71% が 誰にも相談しなかった 有効な支援はなかった

家庭裁判所

協議離婚は **31**% のみ

親権者／監護者を裁判所で決定した **87**% が 不当だと感じている

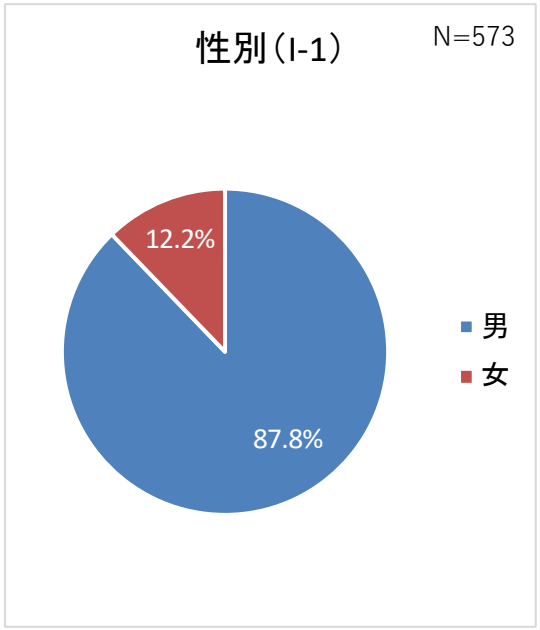
心理状況

簡易抑うつ尺度何れの設問においても **50**%以上が

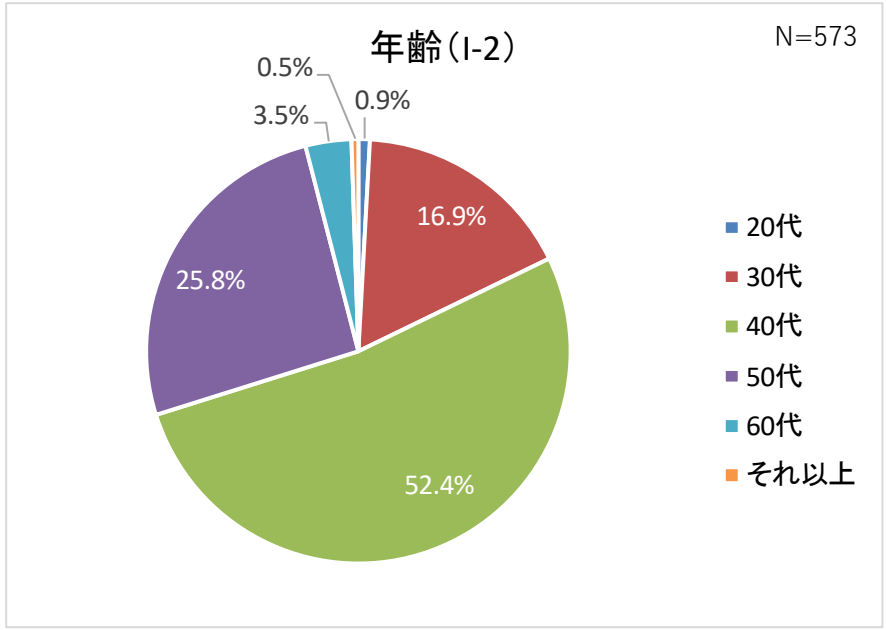
別居前と比較して心理的・精神的な負担が高まった

アンケート回答の別居親の顔ぶれ概要（１／２）

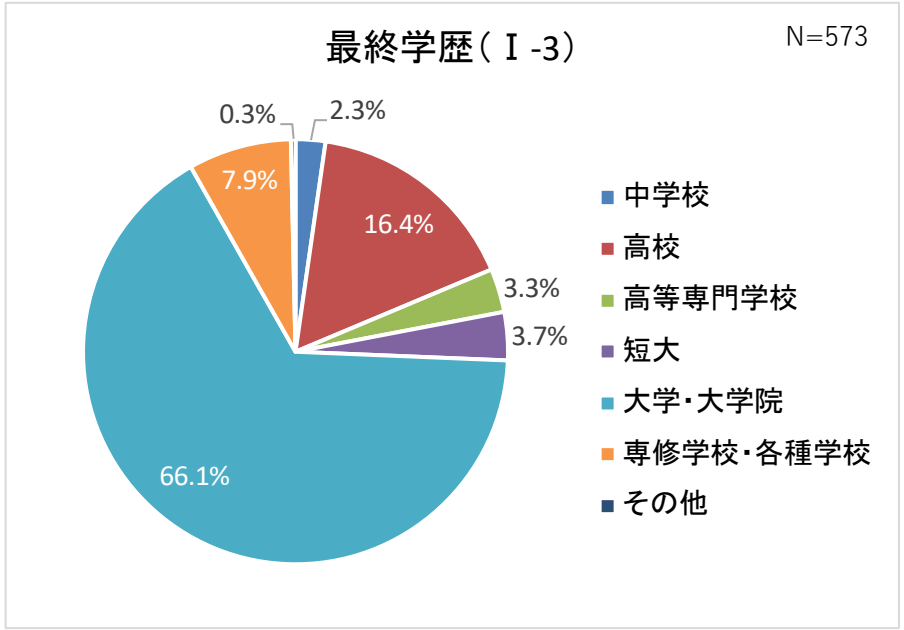
離婚の人口動態統計に対応するように男性の別居割合が高い。
法務省が実施した協議離婚の統計と比して、大学・大学院卒の最終学歴割合が２倍近い。



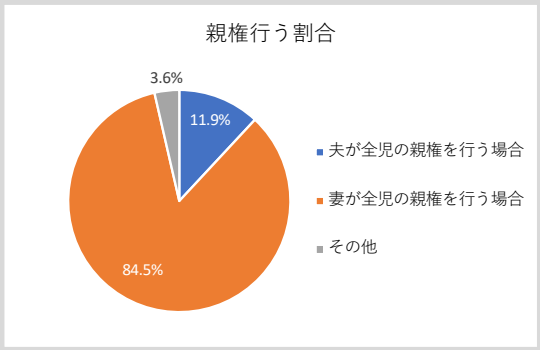
I-1. あなたの性別についてお答えください。



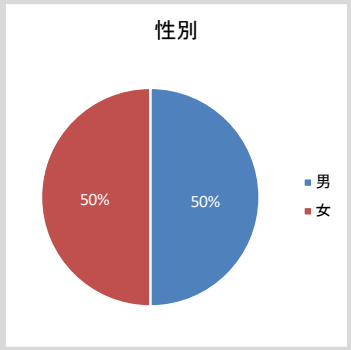
I-2. あなたの年齢についてお答えください。

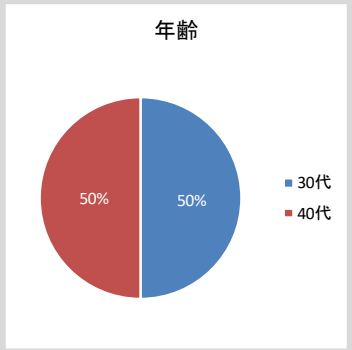


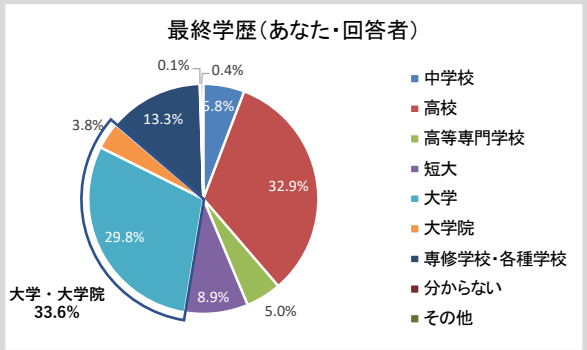
I-3. あなたの最終学歴についてお答えください。



人口動態調査 人口動態統計 確定数 離婚（2019）



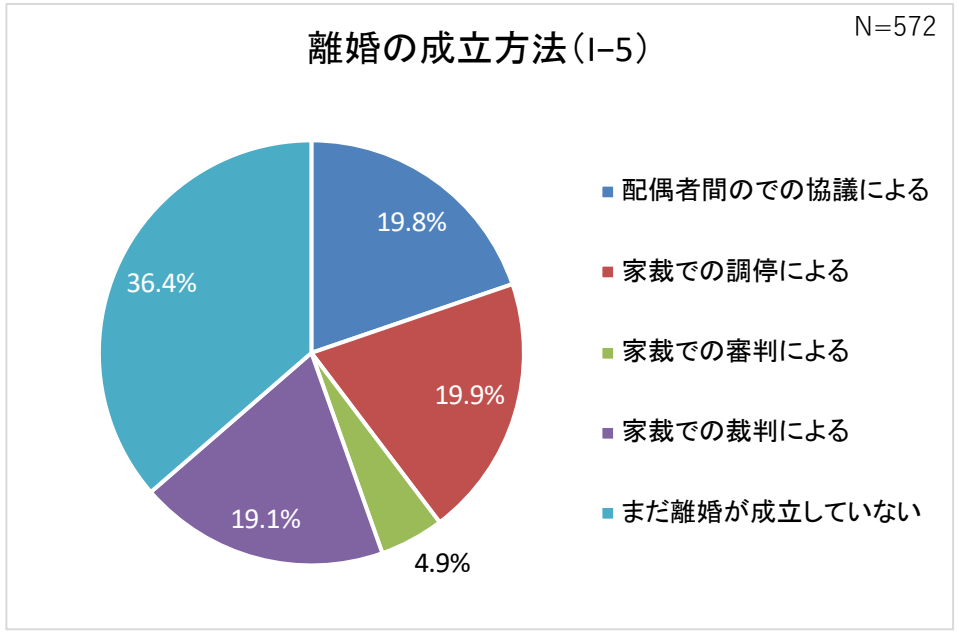


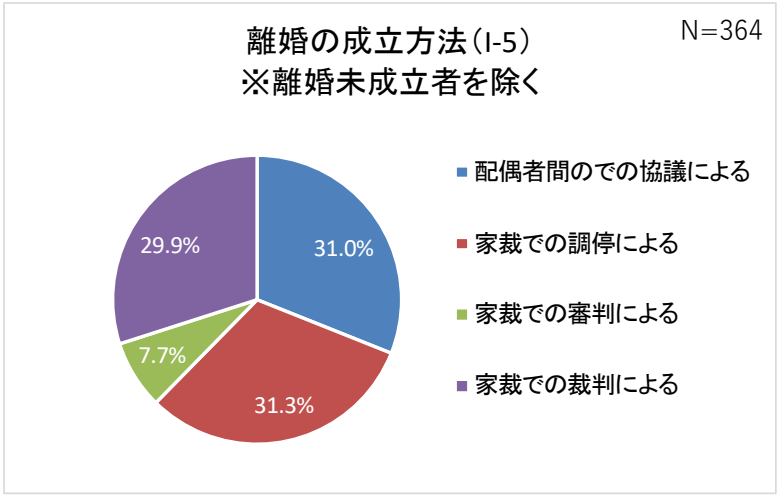


法務省 協議離婚に関する実態調査（2021）

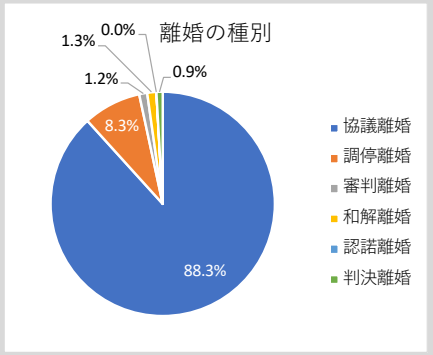
アンケート回答の別居親の顔ぶれ概要（２／２）

全国で見れば協議離婚割合は９割近いが、本アンケート回答者は３割にとどまる。
裁判離婚に至っては、全国ではたった２．２％だかアンケート回答者では３割にものぼる。





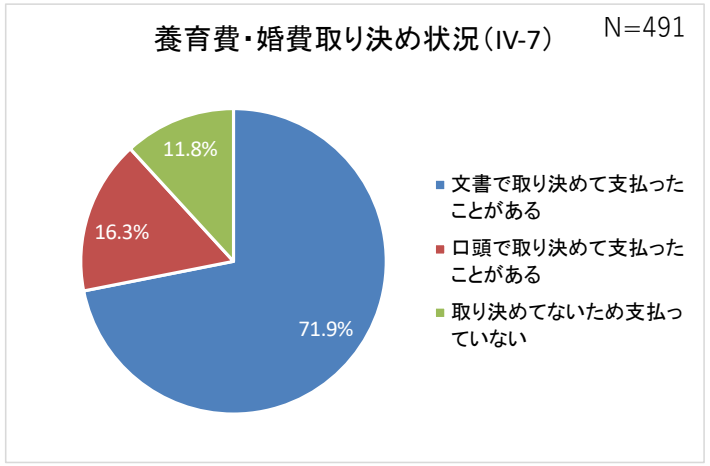
I-5.　以下のどのような方法で離婚が成立したかお答えください。



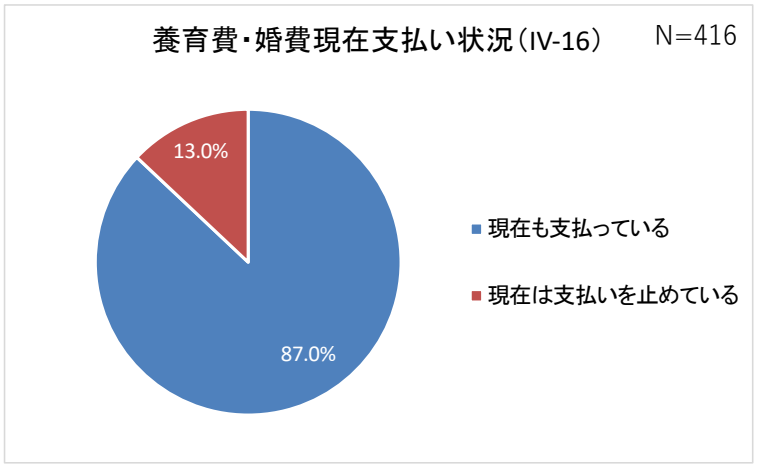
人口動態調査 人口動態統計
離婚の種類別にみた年次別離婚件数及び百分率（2020）

養育分担（養育費・婚費）（１／２）取り決めと支払い状況

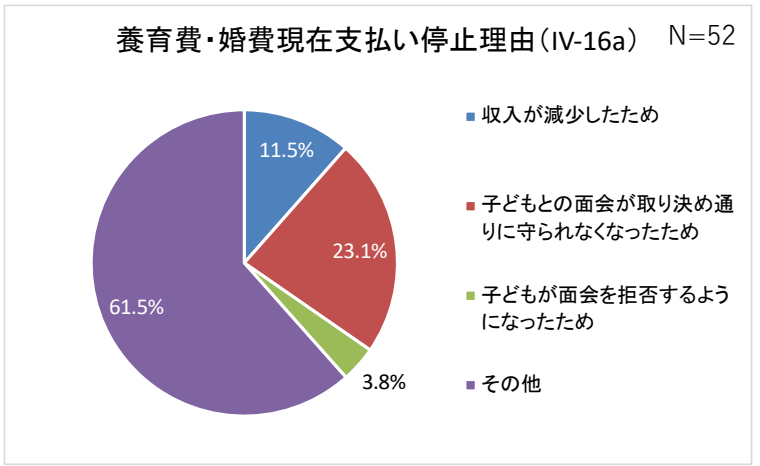
養育費・婚費の文書での取り決め割合は７割で、９割が現状も養育費・婚費を支払いを継続している。
厚労省全国ひとり親調査結果と比して圧倒的に高い取り決め割合・支払い率が高い。
本調査・ひとり親世帯調査を総合しても、養育分担の取り決めがされる法整備は必須。



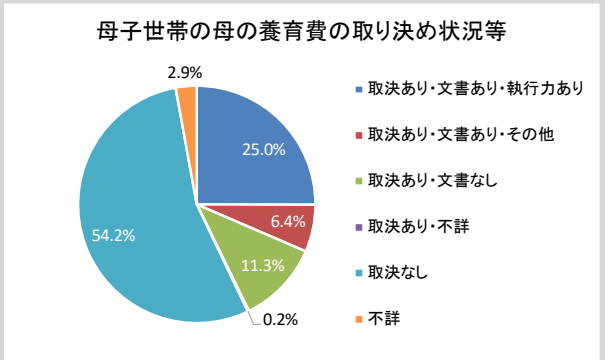
IV-7. あなたは過去または現在、養育費または婚費を支払ったことがありますか。

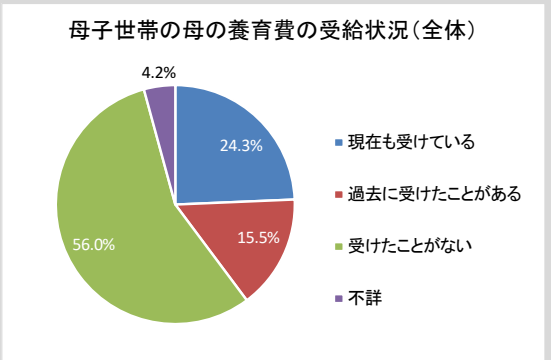


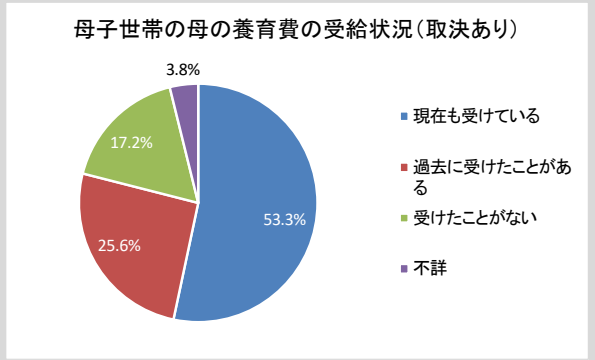
IV-16.. あなたは現在養育費または婚費を支払っていますか。



IV-16a. あなたが養育費または婚費を支払うのを止めた最も大きな理由は何ですか。(IV-16.にて「支払っていない」と回答したひとのみ)



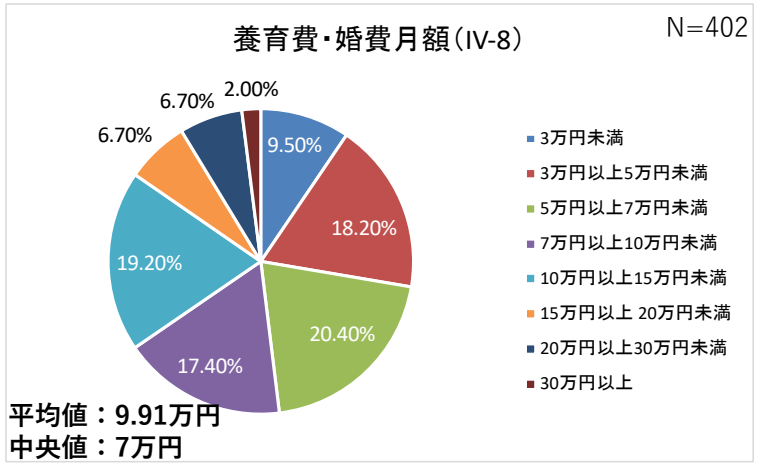




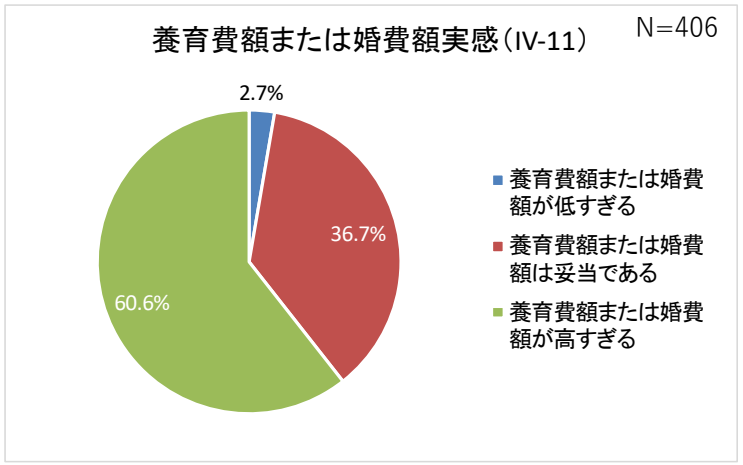
平成28年度 厚生労働省 全国ひとり親世帯等調査結果報告

養育分担（養育費・婚費）（２／２）負担感

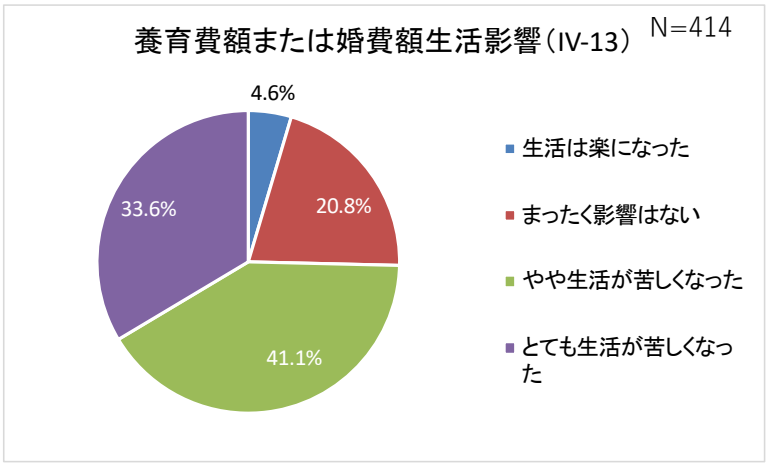
養育費・婚費の額は６割が高いと感じており、７割が生活が苦しくなったと回答した。
養育費の強制徴収のような別居親に支払いだけをさせる法整備をすれば、負担は増すだけ。



IV-8. あなたが支払っている（いた）最近の養育費または婚費の額（月額）をお答えください。



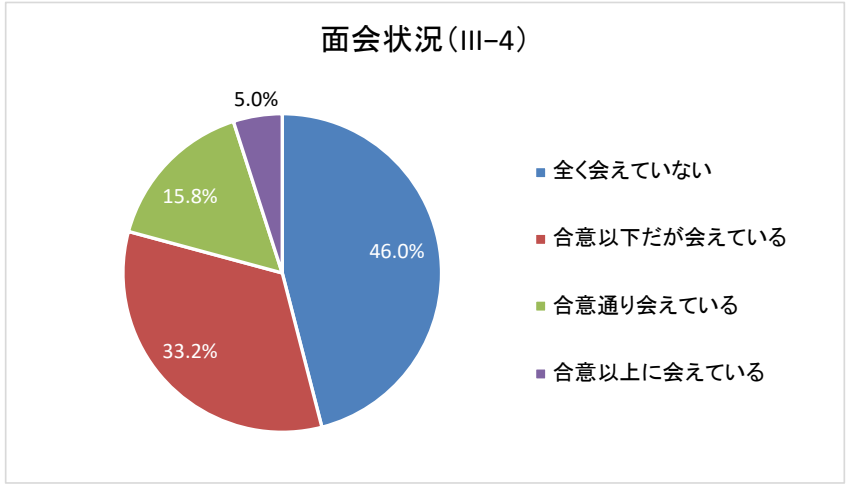
IV-11. あなた自身が支払っている（いた）養育費額または婚費額に対する、あなたの実感についてお答えください。



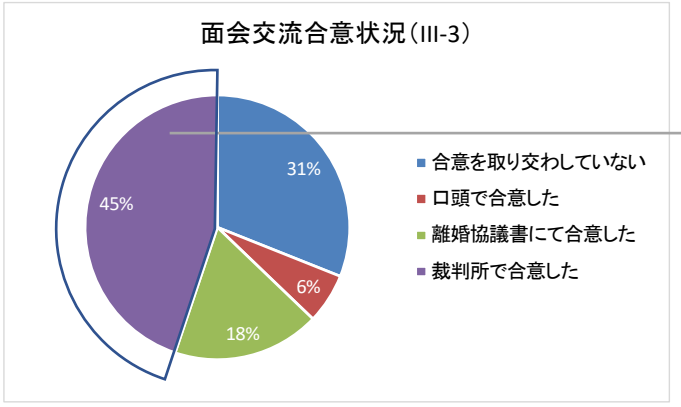
IV-13. 養育費または婚費の支払いにより、あなたの生活への影響はありましたか。

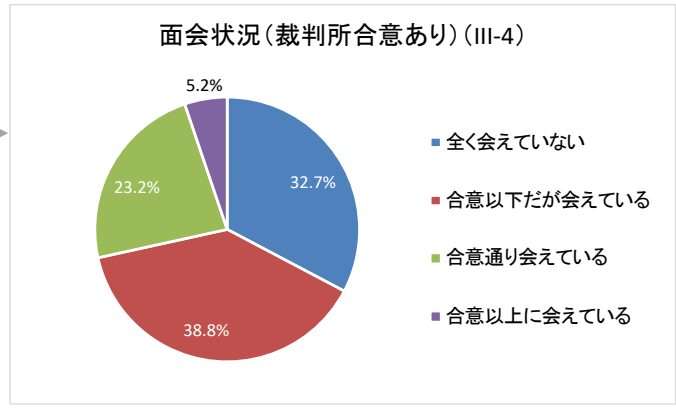
養育分担（面会交流）（１／２）合意の遵守状況

全体として４６％もの割合で子どもと会えていない。
しかも裁判所で面会交流の合意をしても３割が子どもと会えておらず、合意以上に会えているのは３割にとどまる。
裁判所合意が守られないのであれば裁判所の存在意義は薄れる。合意が遵守される法整備が必要。



III-4．お子さんとの面会状況（試行面会を含まず）についてお答えください。



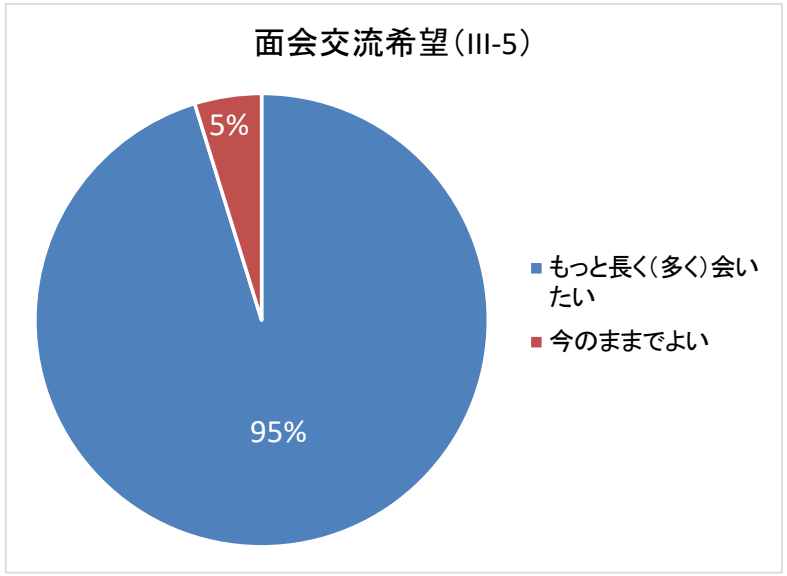


III-3. お子さんとの面会交流（直接・間接含む）の合意についてお答えください。

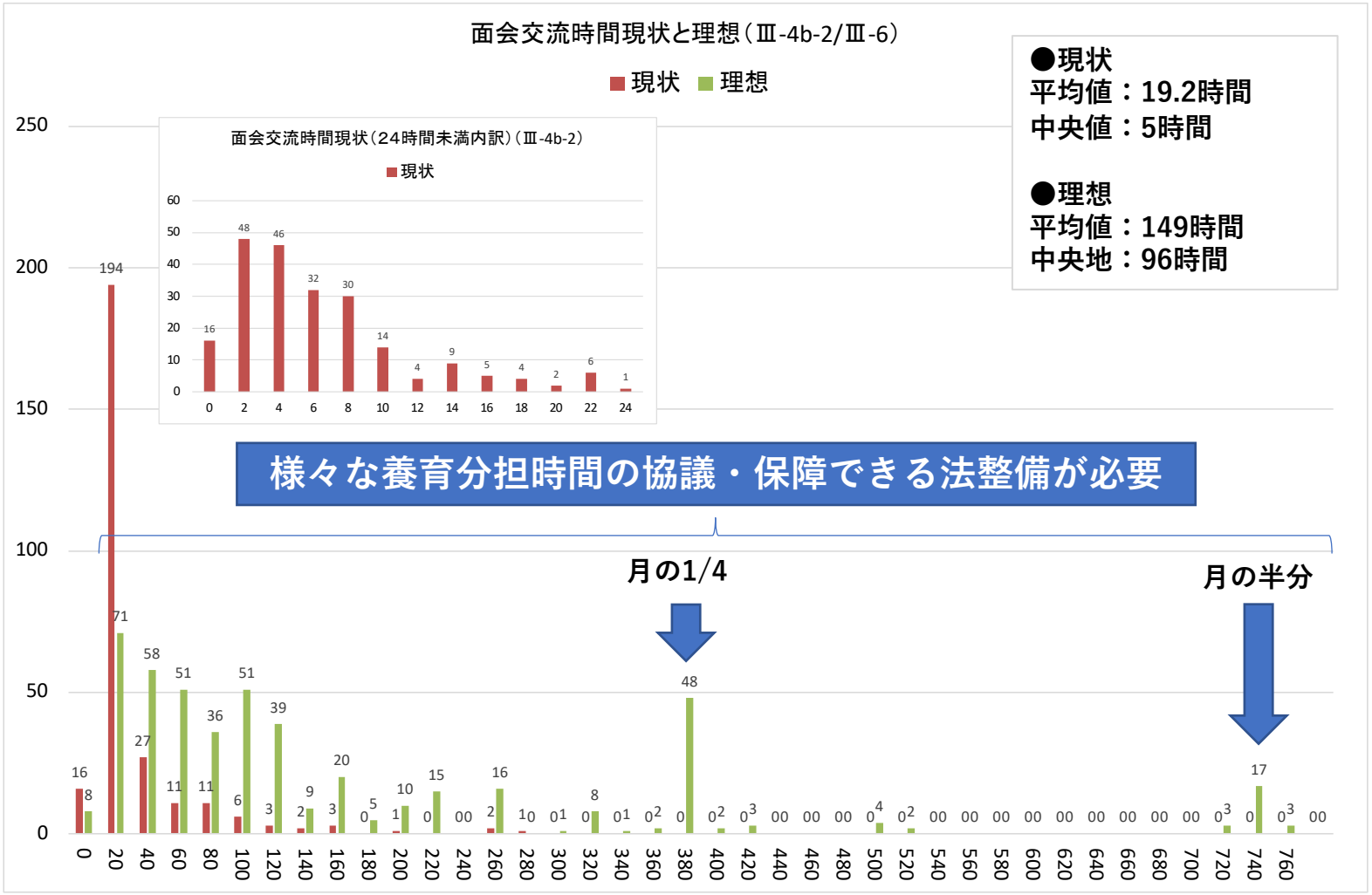
２０１４年の日弁連のアンケートによれば、調停で合意したにも関わらず４４％の割合で「全く面会ができていない」状態とあるが、この割合に近しい回答が得られた。
毎日新聞（2014.11.3）「面会交流:親子面会、４割実現せず　離婚・別居、調停成立でも－－日弁連調査」

養育分担（面会交流）（２／２）養育分担希望

面会交流は現状よりももっと長く会いたい別居親が９５％を占める。
理想の面会時間を見てもごく限られた面会交流では無く、養育時間の分担を求めていることが分かる。
そのための、様々な養育時間を協議・保障できる法整備が必要。



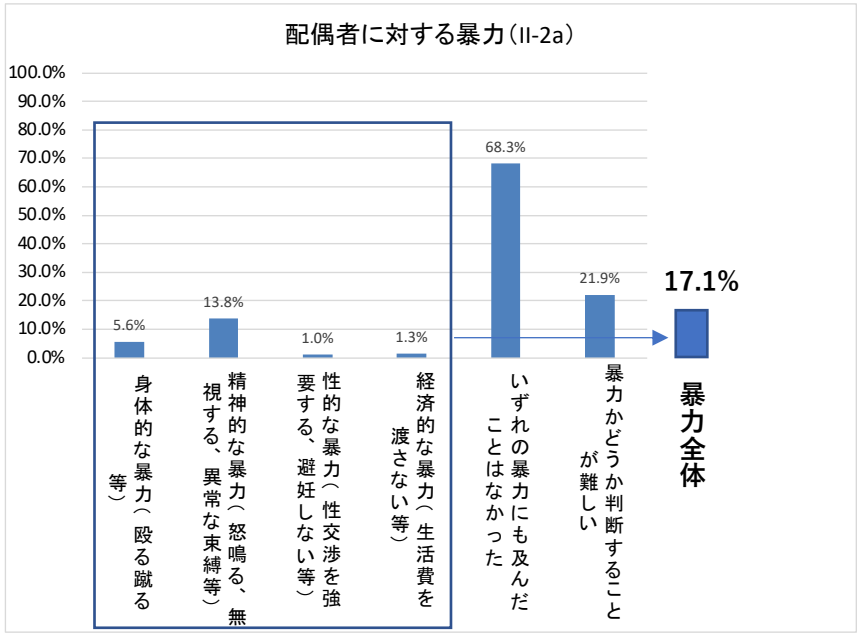
III-5. あなたご自身の、お子さんとの面会の意思についてお答えください。



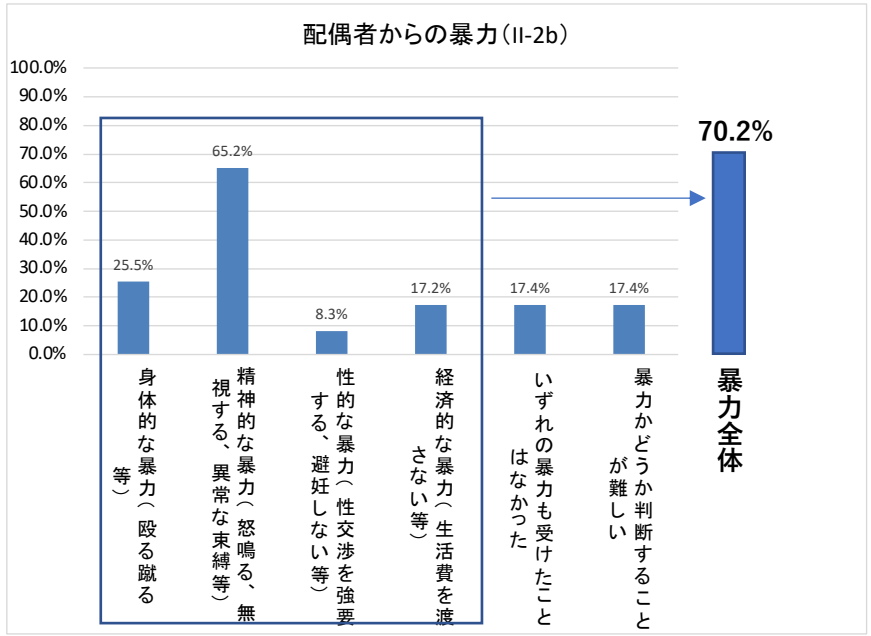
III-4b-2. お子さんとの直接の面会時間の合計
III-6. あなたが理想とするお子さんとの直接の面会時間を、一か月あたりでお答えください。

配偶者間の暴力と相談先（１／２）暴力の実態

別居親の７０％が配偶者からの暴力を受け、身体的な暴力も２５％が受けたと回答。
その一方で、配偶者への暴力は無かったと６８％が回答。
なお、ひとり親の７割が配偶者からの暴力があったといった民間調査（主に女性ひとり親）＊もあることから、
同居親別居親、男女双方の７割程度の暴力被害を感じており、家庭内で困っていることが分かる。



II-2a.あなたから（元）配偶者に対して以下のような行為を行ったことがありますか。（複数回答）

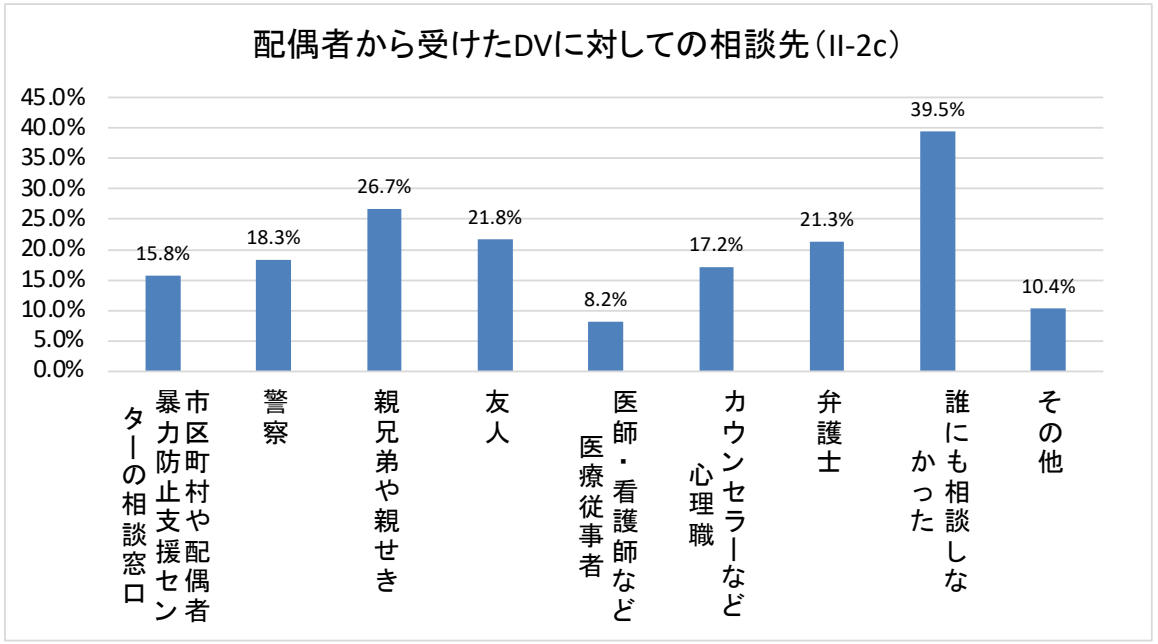


II-2b.（元）配偶者からあなたに対して以下のような行為が行われたことがありますか。（複数回答）

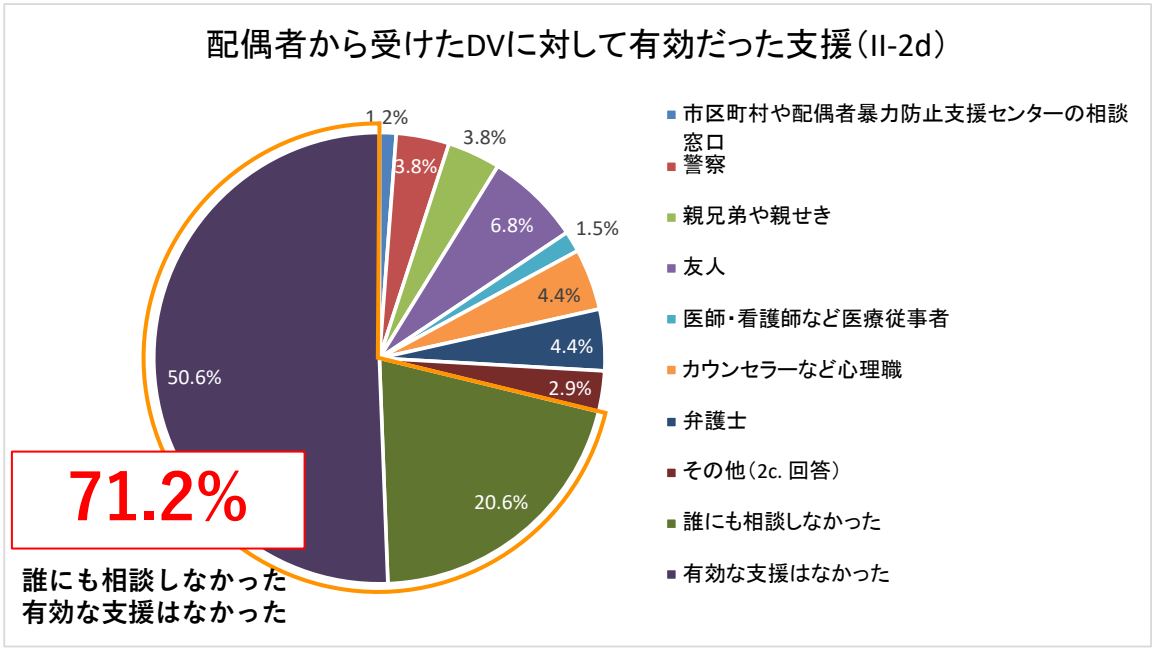
＊「別居中・離婚前のひとり親家庭」実態調査プロジェクトチーム（2020）「別居中・離婚前のひとり親家庭アンケート調査報告書」
P.10　約７割が相手からのDVを経験
https://florence.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/11/20201111report.pdf

配偶者間の暴力と相談先（２／２）相談先と有効性

配偶者からの暴力に対し５０％にが有効な支援がなかった、２０％が誰にも相談しなかったと回答。
家庭の中で起きる暴力に対して相談できず、有効な支援も無いという深刻な状態が明らかになった。
配偶者間の暴力について、男女の区別なく支援をする法整備・運用体制が必要。



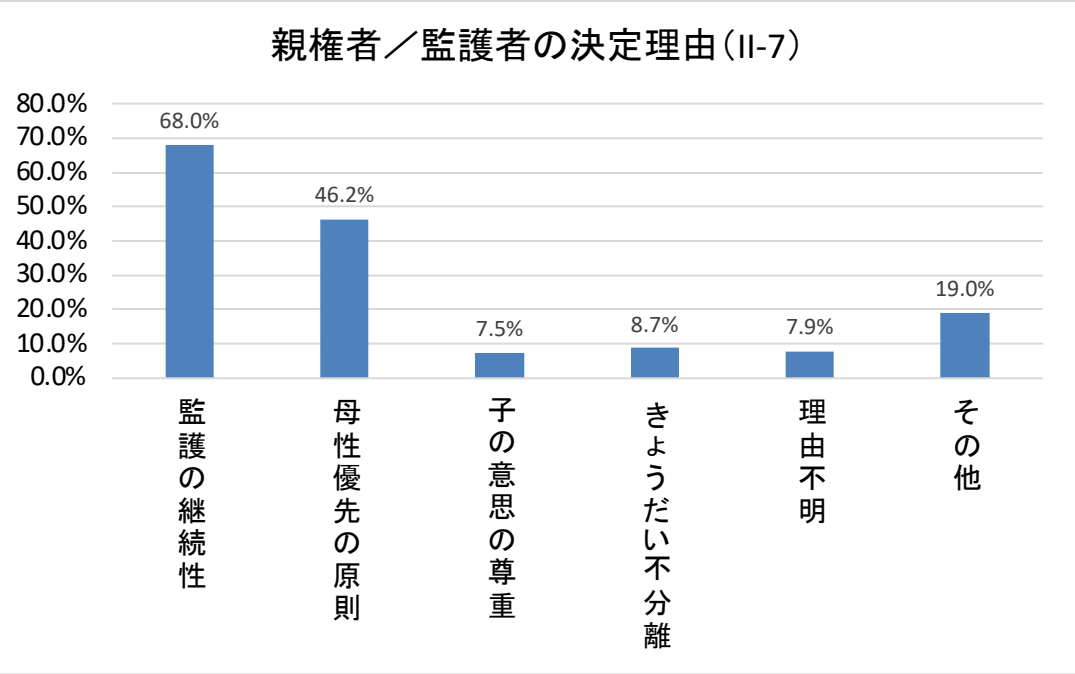
II-2c.（元）配偶者からのDVに対して、誰に支援（相談・助け）を求めましたか。（複数回答）



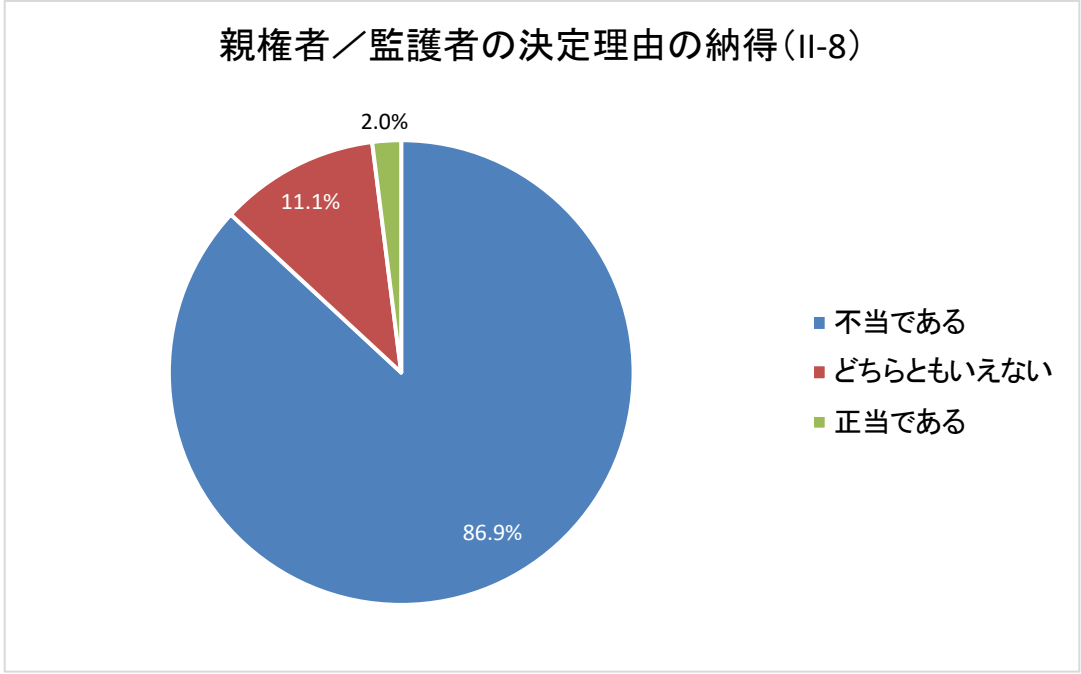
II-2d. 上記で最も有効だった支援はどれでしたか。

裁判所への信頼

当事者の中で共有されているとおり親権者／監護者の決定は「監護の継続性」であったことが６８％を占めた。
その理由について８７％が不当だと感じていることが分かった。
家庭裁判所の決定を市民が正当だと感じられるように法制度の見直しが急務。



II-7.親権者／監護者を裁判所で決定された方にお伺いします。決定の理由は何でしたか。（複数回答）

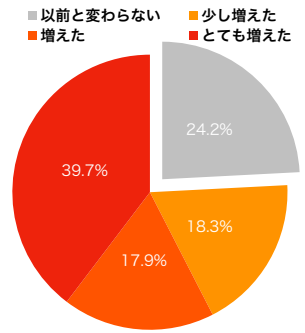


II-8. 上のII-7. の裁判所の示した理由は、あなたにとって納得いくものでしたか。
(II-7.で「裁判所で決定した」と回答した人のみ)

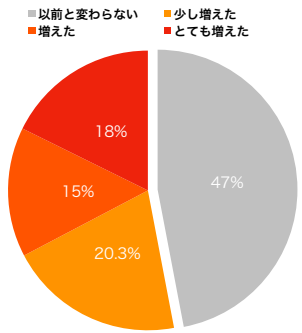
別居親の心理状況

何れの設問においても別居以前よりも不安定な心理状況になっていることが伺える。

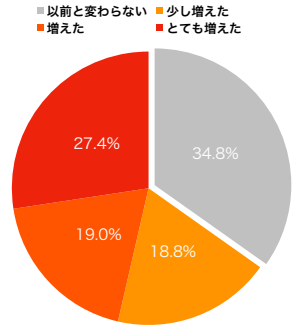
V-１. 日々の仕事や日常業務に集中できなくなった



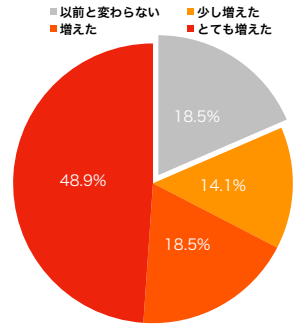
V-２. イライラして怒りっぽくなった



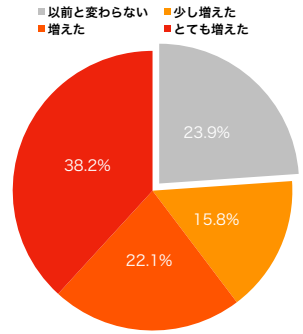
V-３. そわそわして落ち着かなくなった



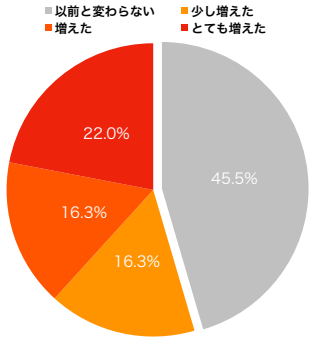
V-４. 何をやってもあまり楽しめなくなった



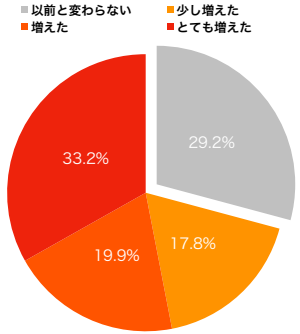
V-5. 自分に対する肯定的な気持ちが低下した



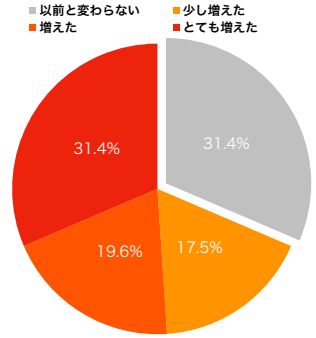
V-６. 親しい家族や友人への信頼が低下した



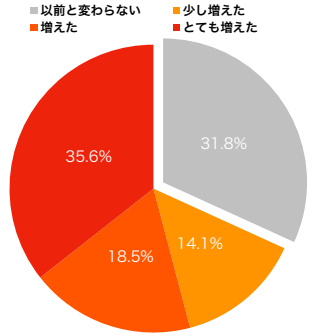
V-７. 他人に対する信頼感が低下した



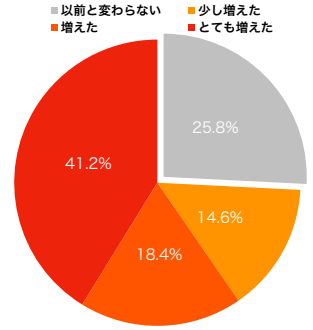
V-8. 人に会うのがおっくだと感じるようになった



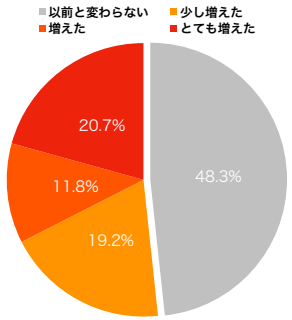
V-９. 新しい物事に対する関心や興味が低下した



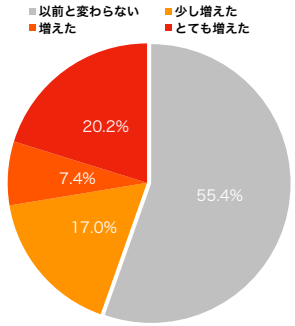
V-１０. あまりぐっすりと眠ることができなくなった



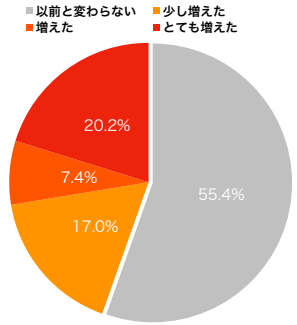
V-１１. 身体的な不調のために医療機関に通院し服薬治療を受けるようになった



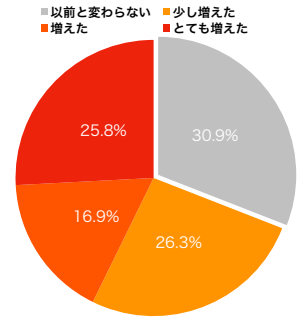
V-１２. 精神的な不調のために医療機関に通院し服薬治療を受けるようになった



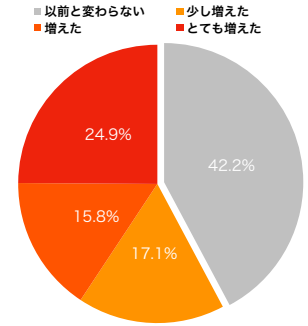
V-１３. 精神的な不調のため心理職からカウンセリングを受けた



V-１４. 自暴自棄になる機会が増えた



V-１５. 自ら命を絶とうと考えるようになった



面会交流トラブル（１／３）学校・保育園

学校・保育園の対応から立ち入りすらできなくなった数々の声が寄せられた。声の例を示す。
学校・保育園といった公的機関において同居・別居／父・母を差別しないような法整備が必要。

行事参加	卒業式に参列したいと〇市立▲小学校に電話をしたら■教頭から拒否された
	小学校から入学式に警察に通報されて、警察官に囲まれて３０分以上執拗に職務質問を受けた。
	こども園の行事参加を制限されました。親権者が許可していない、各家庭1人までという理由でした。
	子どもが通う小学校の校長より同居親の合意が無いため、別居親への対応は受け入れが難しいと言われた。
	行事には参加させてもらえなかった。
	学校長に子どもの部活への参加を拒まれた。学校配布物の提供を制約された。
立ち入り	別居後配偶者より、保育園の立ち入りを禁止された。迎え、会いに行っても無駄と言われた。ただ単に、連れ去り防止によるものと考えられる。
	相手方の許可が必要であると言われるため、一切の立ち入りはできない
	お母さんが会わせるなと言われたので会わすことができませんと言われた。子供に会いたいのなら、建物の外から少しだけ覗く程度なら良いと。抱っこはさせれませんと断られました。親権が有っても、第一保護者が会わせるなと言われたらお客さんでもあるので、受け入れるしかないとのことでした。
	離婚調停中、離婚後、連れ去りの可能性があるとして立ち入りを禁止された。それまでは毎日私が迎えに行っていた。連れ去るという想いは全くなかった。
	学校や療育施設から、子どもを養育していない者は保護者ではないとの理由で排除されました。
秘匿	子供が勝手に保育園に通園を開始し、通園名も秘匿されています。通園していると思われる保育園全てに手紙を送りました。父親である事、面会交流もしている事、園行事に参加したい事、園長とのアポイント。 電話もしましたが、相手にされず、通園していない保育園も妻に手紙の内容を連絡されました。（個人情報流出にあたるかも知れません）

VI-1 お子さんが通園・通学する施設への立ち入り制限（行事の参加を含む）を受けたことがありますか。もしあればあなたが施設関係者から立ち入りを制限された理由についてご記入ください。

面会交流トラブル（２／３）（元）配偶者

ドタキャン、（元）配偶者・義親の同席、連絡調整、暴言など数々の妨害を受けていた。声の例を示す。
配偶者との間の面会交流のトラブルを軽減させるための法整備が必要。

ドタキャン	調停条項の約束日時に来なかった
	子や自身の体調不良、コロナを理由に度々ドタキャンされる。あまりに疑わしいため、診断書等で疎明を求めるも、一切応じない。また、交流中「写真を撮るな」と言われており、撮ったら今後の交流に応じないと脅されている。
	妨害かどうかわからないが、取り決めた日程はほぼ破られた。直前キャンセルもしばしば。しかも連絡はすべて子供にさせていた。代替日もありゼロにはならなかったが、それにより面会日は実質減少。当日来なくて連絡もつかず警察に連絡したこともある。　調停期間は完全に来なかった。
同席	親子交流を開始したころは、同居親とその母親が同席していた。こどもは2人をいつも気にしていた。
	元配偶者、その母親が同席でなければ面会が行われない
	面会交流の場から立ち去らず、子供が私と二人ですごす時間を妨害してくる。妨害の為に、仕事を開けるよう調整してくる。
調整連絡	面会交流の連絡がこない。第三者機関の施設の利用を提示される。費用負担は全額こちら側で持つように言われる。
	連絡が取れない。
	連絡しても何も反応がなく、無視をされ続けている。
暴言	子どもの前でいわれのない事で罵倒され、酷い親だと罵られた
	酷すぎる妨害を受けた。思い出し表現しようとすると凄い苦痛が生じるので、詳しく書けない。 幼い子どもを盾にして嘲笑、卑下、挑発、暴言を繰り返すなど、これ以上の事も
	あります。 面会交流中、元妻の父親に付き纏われ、暴言を吐かれました。

VI-2 お子さんとの面会について、同居親（元配偶者）、あるいはその同居家族からの妨害を受けたことがありますか。もしあれば、どのような妨害があったかご記入ください。

面会交流トラブル（３／３）司法機関・弁護士

裁判官・調査官・調停委員といった司法機関所属の職員から面会交流の妨害を受けていることが分かった。
面会交流・共同養育を保障するために司法機関職員の判断を規制する法整備が必要。

裁判官	裁判所が決めた面会交流実施要領すら元配偶者が約束破っても裁判所が元配偶者へ言わなくなった。
	会えないのなら直接会いに行くと言ったところ、裁判官がそれは駄目だと根拠を言わずに干渉をしたもの。
	裁判官から、和解に応じないとより子供に会えなくると。
調停委員	調停委員より、「面会交流は月一回2時間、祖父母は無しが一般的ですから」と、その方向へ誘導しようとされた。
	調停委員に月１回の面会交流が妥当だと限定された
	私が子どもによからぬことを吹き込み、子どもが会いたがらないので、調停で決まった面会交流を中止すると言われた。 女性の調停委員や調査官から、面会交流を拒否する元配偶者の言い分に偏った対応を受けた。
調査官	共同養育について円満調停で持ち掛けたが最初の調査官より、「共同養育」というのはないといわれた。 相手弁護士が、日程調整に入ったが面会交流の日時待ち合わせ場所について、調整を怠り会えなくなったことがあった。
	離婚調停では柔軟に対応できるようにとの裁判所の提案で面会時間を取り決めなかったが、30分から一切伸ばしてくれなかった。面会交流調停を起こしたところ、調査官から30分で何が問題なのかと当初の提案を忘れたかのような非人道的な対応をされた。
	調査官による調査報告書で同居親とその家族の都合のみを考慮して、一方的に月一回4時間が妥当と記載され、これを根拠にその面会条件を飲まざるを得なかった。
相手方 弁護士	理由なく相手方代理人がこちらの提示をする希望の条件を全否定を12ヶ月にも及び行い、不当な干渉を受けた。
	相手方弁護士に面会交流の依頼をしても拒否か無回答のみ。
	妻の弁護士から繰り返し、子に接近しないよう警告

VI-3 お子さんとの面会について、司法機関（弁護士を含む）から干渉を受けたことがありますか。もしあれば、あなたが受けた干渉の内容をご記入ください。